

# 総合資源エネルギー調査会 基本政策分科会（第13回）議事概要

日時：平成25年12月13日（金）18:30～20:30

場所：経済産業省本館17階第1～3共用会議室

議題：エネルギー基本計画に対する意見（案）について

出席者：

基本政策分科会委員

三村明夫分科会長（新日鐵住金（株）相談役名誉会長）

秋元圭吾委員（（公財）地球環境産業技術研究機構システム研究グループリーダー）

植田和弘委員（京都大学大学院経済学研究科教授・研究科長）

柏木孝夫委員（東京工業大学特命教授）

橘川武郎委員（一橋大学大学院商学研究科教授）

崎田裕子委員（ジャーナリスト・環境カウンセラー、NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット理事長）

志賀俊之委員（日産自動車（株）代表取締役副会長）

辰巳菊子委員（（公社）日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会常任顧問）

豊田正和委員（（一財）日本エネルギー経済研究所理事長）

増田寛也委員（東京大学公共政策大学院客員教授、野村総合研究所顧問）

松村敏弘委員（東京大学社会科学研究所教授）

西川一誠委員（福井県知事）

山名元委員（京都大学原子炉実験所教授）

## 経済産業省

上田資源エネルギー庁長官、後藤大臣官房審議官、木村省エネルギー・新エネルギー部長、住田資源・燃料部長、高橋電力・ガス事業部長、飯田総合政策課長

## 内閣府

豊田大臣官房審議官

## 外務省

赤松経済局政策課長

## 文科省

田中大臣官房審議官

## 農水省

信夫再生可能エネルギーグループ長

## 国交省

堀江地球環境政策室長

## 欠席者：

### 基本政策分科会委員

寺島実郎委員（（一財）日本総合研究所理事長）

中上英俊委員（（株）住環境計画研究所代表取締役会長）

## 総合資源エネルギー調査会基本政策分科会第 13 回会合（12/13（金））概要

1. 第 12 回分科会における議論及び文書で提出された委員からの意見を踏まえた「エネルギー基本計画に対する意見（案）」の修正版について、ディスカッションを実施。結果として、「エネルギー基本計画に対する意見」については、各委員の意見が議事録に残ることを確認した上で、全員一致で分科会長一任となった。

2. 委員からの主な意見・コメントは以下のとおり。

廃棄物の処理費用や働いている人の被ばく等の管理費用を踏まえると原子力の運転コストが低廉であるとは言えないのではないか。

原発のコストについて、コスト等検証委で十分議論されている。不確実性はもちろんあるが、原子力は相対的に安いという結果が出ている。

委員の間で意見が分かれている部分については、一つの結論に集約しなくてもよいのではないか。

専門家集団たる分科会の責任として一つの意見を出すべき。

原子力について、可能な限り低減することと、必要な規模を確保することは矛盾する。国民の思いを踏まえれば「規模を確保」の文言は不要。原発を無くすべきという主張をしている委員は、エネルギーセキュリティへの影響をどう考えているのか。地球温暖化については、原子力がない場合の目標を COP19 に提出したが相当批判を受けた。経済影響も無視できない。一家の大黒柱の仕事が無くなったらどうなるのか。

ベース電源がなくて工業国家は成り立たない。中国・インドはそのために原発を欲している。他方、原子力への批判的な意見についても、脱原発でないにせよ「縮原発」を打ち出している上に、「できる限り」という文言が記載されており、批判的な意見も十分考慮されていると思う。国際的な視点等、俯瞰的に考えると一定の「規模を確保」というのも納得できる。精一杯の妥協点ではないか。

今回の案は多様な意見を率直にまとめたものとなっている。事故が起きたときの影響が大きい原子力について、低減するという文言が入ったことは、国民の気持ちから考えても良いこと。

理想と現状の間にある、システム改革等を踏まえた 2020 年代の姿を、定性的であるにせよ明確に示していると思う。

エネルギーミックスについてはこの場で決めることはしないが、政府は、エネルギーミックスの策定などの課題に取り組むための体制を早急に整え、検討を速やかに開始すべき。